

あいのかぜ



Vol. **42**

2016年 秋号

富山の伝統産業と 家族のチカラ



桂樹舎／川上鱒寿司店／売薬ご夫婦

● 男女共同参画とやま市民フェスティバル2016

● 男女共同参画推進センターからのお知らせ



富山の伝統産業と 家族のチカラ

富山に息づく伝統文化。
富山の伝統産業を家業とする家族に
スポットをあて、男女共同参画の視点から
お話を伺いました。



富山の伝統産業と
家族のチカラ



桂樹舎 吉田 泰樹さん

昭和35年創業の手すき和紙製造「桂樹舎」2代目。
手すき和紙、型染め和紙をはじめ、和紙カレンダーや
ステーショナリーなどの和紙加工品の製造・販売を手
がける。現在は、母、妻、娘の4人暮らし。富山市出身。

富山市八尾町鏡町668-4
TEL.076-455-1184
<http://www.keijusha.net/>

Profile

●桂樹舎

伝統の技法を守り、 家族でつなぐ八尾和紙。

家 族の協力で「八尾和紙」を継承

八尾和紙は、室町時代
からの歴史があると言
われています。八尾の
山間部では、手すき和
紙作りは農家の冬場の



仕事でした。しかし、安価な紙が出回り始め、手すき和紙の
担い手はどんどん減っていきました。父がおこした「桂樹舎」
は創業から56年になります。私は約40年間、手すき和紙を
作り続けてきました。現在は社長としての業務のほか、特別
注文を受けたときや人手が足りないときには、紙すきの作業
も行っています。妻は型染め*の作業と他のスタッフのまとめ
役を、娘はデザインをはじめ、展示会に関わる業務や企画を
担当するなど、家族で協力しています。

*型染め…切り絵のように図柄を切り抜いた型を用いて、和紙などに染色する技法

仕 事場から離れてリフレッシュ

家族と一緒に働くことは、家族だからこそ多少の無理が言
えるという利点があります。しかし、24時間ずっと一緒にいる
ことになり、窮屈に感じることもあるなど、お互いに自由がき
かないと感じることも。普段はなかなか言えませんが、家族に
はありがとうと伝えたいですね。また、自宅が会社の敷地内
にあり電話番号も同じなので、プライベートと仕事の切り替
えが難しいと感じることも
あります。なるべく休みをと
るように心がけ、休日には
趣味のゴルフに出かけた
り、夫婦で買い物に出か
けたりと、できるだけ仕事
場から離れて気分転換す
るようにしています。



根気のいる手すき作業



バラエティーあふれる手すき和紙の製品

繰 り返しの手仕事の先にある喜び

手すき和紙は、原料を煮
てから漂白し、ゴミを取り
除いてほぐし、すいてから
搾り、乾燥させるという約



10工程を経て、10日ほどかけて出来上がります。繰り返しの
作業が多く、根気と集中力の要る仕事です。20人のス
タッフのうち18人は女性です。型染め作業のスタッフを募集
しても女性の応募が多いので、女性に好まれ、忍耐強いと
いわれる女性に適した仕事と言えるかもしれません。
かつて八尾には20軒近くの紙問屋があったそうです。現在は
ここだけとなり、責任の重さを感じます。一つ一つが手仕
事ということもあり、私たちが作った和紙を使ってもらって
いるのを目にすると、やはり嬉しいですね。和紙に関心をもっ
てもらえたことに喜びを感じます。

ヨ ーロッパでも通用する和紙を

手すき和紙は生産量が限られます。伝統工芸全般に言
えることかもしれませんが、経営面での苦労も多いので、「跡を
継げ」とはなかなか言えません。でも、私の父がやってきたか
ら現在があり、私はこの仕事に携われて感謝しています。
だから、次の世代には「努力すれば報われる」と伝えたいで
すね。今後も手すきにこだわり作り方を守りつつ、新たな販
路を見出していくことが大切だと考えています。美術品では
なく普段使いできるものとして、みなさんの日常に少しでも取
り入れてもらえたらうれしい
です。和紙には温かみが
あります。いずれは、ヨー
ロッパでも通用する、より
デザイン性の高い製品を
手がけたいと思っています。



時代を超え、 富山の味をつなぐ家族。



富山の伝統産業と
家族のチカラ

●川上鱒寿司店



神通川で獲れた魚と初代店主



川上鱒寿司店 川上 ^{わたる} 弥さん

大正12年創業の「鱒寿司店」3代目。卸売市場での3年間の勤務を経て、平成6年に家業を引き継いだ。富山市出身。

富山市丸の内1丁目2-6 TEL.076-432-5129
<http://toyamasu.com/>

Profile



ます寿司テイasting講座の様子

神 通川の重石は100年

大正12年頃に、私の祖父が神通川で獲れた魚を売る川魚専門店を始めました。当時の神通川はとても豊かで、それはそれはたくさんの川魚が獲れたそうです。季節ごとに川魚を使って春は鱒、夏は鮎で押し寿司を作るようになりました。現在は、鱒寿司を専門に作っています。当時から今まで使っているものの1つに、神通川の重石があります。重石は、押し寿司作りには欠かせないもので、約100年もの間、私たちを見守ってくれています。豊富な富山の自然に、「鱒寿司」を育ててもらっています。



家 族への気遣いと感謝の気持ち

私は、先代である叔父に鱒寿司作りを教えてもらいました。現在は父、母、叔母二人をはじめパートの方と合わせて10人で働いています。鱒寿司作りは、朝が勝負です。早朝4時に起床し、父と私は魚の仕込みを、母は甘酢を配合して魚に味付けをしています。叔母たちは酢飯を作り、全員で鱒寿司の曲げ物[※]に笹を並べ、酢飯を載せたものに重しをします。商品が出来上がると、私が空港や駅、デパートなどへ配達・納品をします。家族には、「いつもありがとう。これからもよろしく。」と声をかけたいですね。この仕事は一人では出来ません。家族のチームワークが大切です。お互いに健康を気遣いコミュニケーションをとりつつ、個々に負担がかからないよう仕事を分け合っています。また、休日は、家族とドライブや温泉巡りなどをして気分転換をしています。

※曲げ物…日本料理に使う、へぎ板を曲げ、底を付けた容器や折詰の折の類。

人 との出会いは喜び

この仕事の良いところは、たくさんの人との出会いがあることです。平成27年3月に北陸新幹線が開通し、県外からの旅行客が増えました。旅行客には、おすすめの観光名所や富山らしいお店を紹介しています。以前、お店に入りきらないほどの外国の方が訪れ、店頭で鱒寿司を食べていただいたことがありました。今までに見たことのない光景で、楽しい時間でした。鱒寿司を通して富山の良い思い出を作ってもらい、また富山へ来ていただけたらいいなと思っています。お客様に喜んでいただけることが、私たち家族のなによりの喜びです。



伝 統を守りつつ新たな試みも

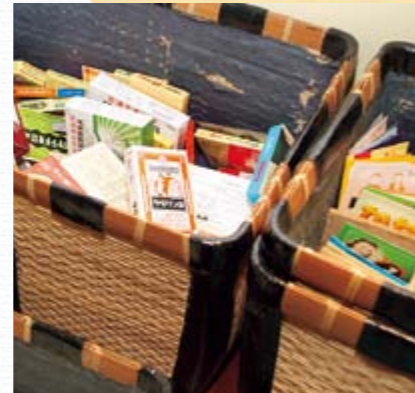
鱒寿司の魅力を多くの方に知っていただきたいと思います。私も講師を務める市民大学、「とよままち大学」では「ます寿司テイasting講座」を数か月に一度開いています。講座では、鱒寿司の歴史や文化などをわかりやすく紹介し、鱒寿司を試食しながら、その魅力を再発見する試みをしています。また、県内外のイベントに出向き、実演販売などもしています。これからは、富山の伝統産業全体で、一緒に盛り上げていきたいですね。初代、先代から続く伝統を守るためにも、時代の変化に適応し、新しいことにチャレンジして頑張りたいです。そして、お客様から愛される味を追求し続ける事が一番大事だと思います。



夫婦でつなく、 セルフメディケーション。



● 売薬ご夫婦



昔懐かしい売薬さんのこおり



薬研▶



レトロな薬のパッケージと薬箱

売薬ご夫婦 左: 左近 忠久さん 右: 左近 静香さん

左近家は、祖父の代から三代続けて売薬を家業としている。現在は、富山市の自宅で夫婦、母の3人暮らし。忠久さんは、富山市出身、静香さんは、長崎県出身。

(参考) 富山市売薬資料館 TEL.076-433-2866
http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/minzokumingei/baiyaku/baiyaku.html

Profile

夫婦で受け継ぐ懸場帳

忠久さん: 売薬を始める前は、三重で妻・娘2人と暮らしながら、サラリーマンをしていました。父の体調不良をきっかけに、祖父から家業の売薬を継ぐように言われ、富山に戻ってきました。仕事を覚えるのは大変でした。祖父にいきなり懸場帳¹⁾を渡され、お客様のところを一人で回ってこいと言われたときは、サラリーマンの方が楽だなあと感じました(笑)。

私たちは、1週間から10日間、石川の羽咋に滞在して各ご家庭に薬箱を配置し、再度訪問します。使った分のお薬の代金をいただきます(先用後利²⁾)。昔は食事つきの宿を借りていたのですが、売薬の数が減るとともに宿も少なくなり、困りました。

静香さん: 羽咋でも住まいを確保しなければならなくなり、思い切って一軒家を買いました。夫が一人で仕事と家事をするのは一苦勞なので、私が夫の生活のサポートをするようにな

りました。また、子育ても一段落して時間ができたので、私も売薬の仕事を始めました。

- 1) 懸場帳…代々続く顧客名簿のこと。顧客の病歴や配置した薬のデータなども載っている。
- 2) 先用後利…各家庭に薬を配置し、使った分だけ代金を頂くこと。



大切なことはコミュニケーション

忠久さん: より多くのお宅を回るために、私と妻は別々に各ご家庭を訪問しています。対応して下さるのは女性がほとんどなので、妻の方がうまくコミュニケーションを取っているようです。子育てや女性特有の体調の悩みなど女性同士の方が話しやすいのではないのでしょうか。

静香さん: 愚痴なども聞いたりして、お客様のストレス解消にも一役かっているのかなと思います。



JR富山駅前(Ciビル)にある▶ 売薬さんの銅像

時代の変化と変わらぬ思い

静香さん: 最近はドラッグストアも増え、簡単に薬が手に入るようになりましたし、若い方は配置薬に馴染みがありません。私たちのお客様も平均年齢は70歳と高齢者の方が中心です。

忠久さん: 昔は、車で石川県まで行き、徒歩か自転車で各ご家庭を訪問していました。現在は、道路も整備され、自家用車で行けるので、便利な時代になりました。富山から石川まで通う売薬仲間もいます。様々な変化がありますが、先用後利は変わっていません。

私たちは1対1でお客様の相談にのっています。健康状態も把握しているので、その方に寄り添った薬の提案ができます。「自分の健康は自分で守る」というセルフメディケーションの推進・サポートが売薬の重要な役割だと考えています。これからもこの役割をしっかりと果たしたいです。そして300年続いてきた富山の売薬を守っていきたいですね。



男女共同参画とやま

市民フェスティバル2016

日時 11/20 日 富山市民プラザ
 平成28年 午後1時30分～(開場 午後1時) 4階アンサンブルホール

■交通アクセス

【会場】富山市民プラザ 〒930-0084 富山市大手町6-14
 ○ JR富山駅より徒歩15分 ○ 市内電車環状線セントラム「大手モール」下車すぐ
 ○ 地鉄バス「総曲輪」または「城址公園前」下車徒歩3分
 【自家用車をご利用の方へ】駐車場には限りがあります(有料)。公共交通機関をご利用ください。

□ 主催・お問い合わせ先：富山市男女参画・市民協働課 富山市新桜町7-38 TEL(076)443-2051 FAX(076)443-2176

開会セレモニー/13:30～

男女共同参画社会づくり作文コンクール表彰式

講演/14:00～

「ワークライフバランス

～仕事も家庭も一生懸命～



講師

菊地 幸夫氏(弁護士)

ミニライブ/15:30～

TOYAMAヴォーカル・ソレイユ
 (女声ユニット)



入場無料 定員先着
 要事前申込 300名

男女共同参画推進センターからのお知らせ

各種相談を 行っています

相談日程は、毎月、
 広報とやま20日号で
 案内しています。

●DV(夫・パートナーからの暴力)相談

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことを言います。ひとりで悩まず、ご相談ください。

[DV相談 専用電話] TEL.433-2210 ※来所相談については、電話予約をお願いします。

●弁護士による夫婦・男女に関する法律相談

●女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

男女共同参画講座を 開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。
 詳細は広報とやまに随時掲載します。どうぞお気軽にご参加ください。

[問い合わせ先] 富山市男女共同参画推進センター (CiC3階：新富町一丁目) TEL.433-1760



伝統産業や文化はふるさとの誇りです。家業の歴史や家族の役割分担、今後の課題や展望などを伺い、商品やお仕事内容がより身近に感じられました。ご家族はもちろん、地域の協力で未来へと受け継がれることを望みます。(春日編集委員)

富山の自然と先人たちのアイデアから文化が生まれ、今なお私たちの生活に密着しています。この富山らしさを誇りに感じ、そして守り続けていく努力と熱意を知ることができました。ありがとうございました。(坪田編集委員)

新潟県から富山県に来て6年目になり、富山のことをいろいろ知っているつもりでした。しかし今回、伝統産業についての貴重なお話を伺うことで、富山の魅力をより感じる事ができたなと思っています。(松尾編集委員)

この号の発行に際しまして、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。

あいのかぜ



“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画社会に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

● 編集・発行

富山市民生活部
 男女参画・市民協働課

〒930-8510 富山市新桜町7-38
 Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176
 E-mail danjo-01@city.toyama.lg.jp

環境にやさしい「水なし印刷」を採用しています。

